

印刷業界の新技术情報を三美印刷がお届けするメールニュース

sanbi-i-com 2009年1月号(No.101)

グリーン購入法ガイドライン、用紙の新しい環境配慮基準

昨年は、1月の年賀ハガキ古紙配合率偽装に端を発した再生紙偽装問題が大きな社会問題となり、再生紙マーク(Rマーク)の表示も大幅に減少しました。そして、製紙業界・メーカーによる原因究明と再発防止策の策定、環境省はじめ各種団体による環境配慮用紙判断基準の見直しが進められた年でもありました。

今回は、環境省による環境配慮用紙判断基準の見直し・検討状況についてです。これは国による用紙調達基準の改正ですが、今後企業や団体における環境配慮用紙の考え方もこの方向で整理されていくものと思われます。

印刷業界紙「印刷新報」(2008年12月11日)の記事



■古紙配合率偽装の原因究明と再発防止策

- (1) 国のグリーン購入法ガイドラインを検討する環境省の「特定調達品目検討会」では、製紙メーカーによる古紙偽装の原因を下記のようにまとめています(2008年6月)。
- 1) 受注・販売競争を優先させた経営姿勢(コンプライアンス意識の欠如)
 - 2) 技術面・設備面の問題(白色度競争、脱墨設備への投資不足、良品古紙不足等)
 - 3) 消費者とのコミュニケーション不足(古紙の利用と品質の競合)
- (2) 日本製紙連合会では、昨年4月に「生産時に古紙パルプ配合率を検証する制度」を策定、王子製紙、日本製紙などはそれに基づく「管理手順書」を作成し、その運用状況はお客様や第三者機関による確認を受けるようにしています。

■環境省による環境配慮用紙基準の見直し状況

- (1) グリーン購入法を所轄する環境省では、製紙メーカーへの再発防止策、環境対応策を指示するとともに、グリーン購入における古紙利用のありかた、環境配慮用紙判断基準の見直しを進

めてきました。昨年11月には、「紙類に係る判断基準の見直し案」を発表し、今年2月の閣議決定を経て、コピー用紙については今年4月より実施する予定です。

(2) 今回見直し案の主な内容

1) コピー用紙

現行基準「古紙パルプ配合率 100%かつ白色度 70%程度以下であること」が、下記のように変更になります。

①古紙・森林認証材・間伐材パルプ等の配合割合、白色度及び坪量を総合的に評価した総合評価値が 80 以上であること（平成 21 年度は経過措置として 70 以上）。

②バージンパルプが原料として使用される場合は、原木の伐採に当たって生産された国の法令に照らして合法的なものであること。

③製品（用紙）に総合評価値及びその内訳が記載されていること。

2) 印刷用紙

平成 21 年度においては、現行基準（古紙パルプ配合率 70%、バージンパルプを使用する場合は森林に関する法令に照らして合法的なものであること）の通りですが、上記のような総合評価指標の導入も含め、次年度引き続き検討を実施するとなっています。

(3) 総合評価指標を導入するメリットとしては、下記のような点を上げています。

1) 品質を含め、環境価値を一律でなく総合的に評価できること。

2) 事業者が独自の技術力や地域性（工場の立地条件、製造ライン等）、製造コストなど状況に合わせた生産ができるようになること。

3) 白色度など品質に対する過度な競争を排除し、環境価値の大小を数量的に消費者に伝えることが可能となること。

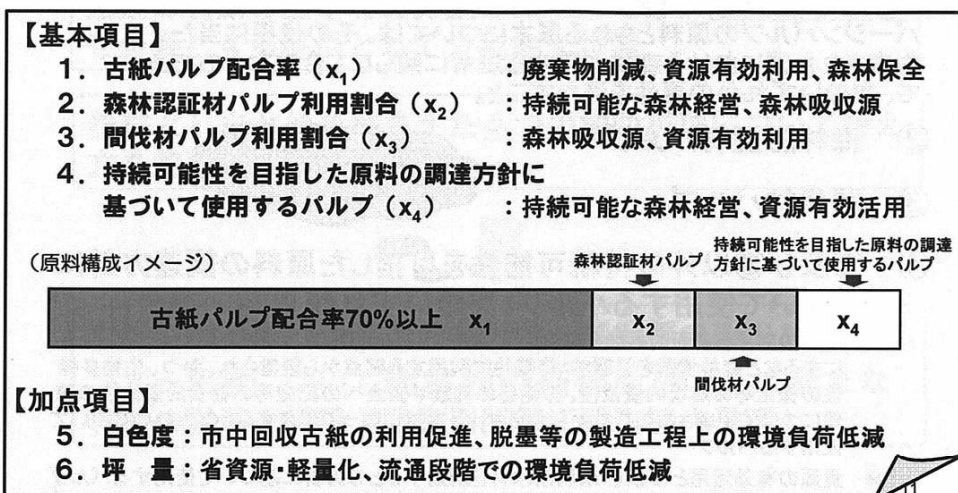
■環境配慮用紙(当面はコピー用紙)の判断基準は総合評価方式に

(1) 今回の見直し案の最大の特徴は、環境配慮用紙(当面はコピー用紙のみ)の判断基準が総合評価方式に変更されたことです。具体的には、下記の点です。

1) 用紙の原料となるパルプの配合は、古紙が 70%以上、その他は森林認証材や間伐材パルプ等であること。

2) 用紙の白色度や坪量(斤量)も重要な環境性能の価値として、加点指標としたこと。

➤ 環境指標項目は、廃棄物削減、資源の有効活用、持続可能な森林経営等の観点から、原料組成を基本指標とする。また、その他重要な環境性能の価値を評価するため、白色度及び坪量を加点指標とする



(2)そして、製品(用紙)に下記のような総合評価値及びその内訳を記載するようにしたことです。この結果、今後は古紙パルプ配合率のみを主張する再生紙マーク(Rマーク)の表示から、総合評価値の内訳表示に変わっていくものと思われます。



今回の見直し案の実施は平成21年度はコピー用紙のみとなりますが、印刷用紙もこの総合評価方式への移行が検討されていくこととなります。グリーン購入ネットワークやエコマークを運営している日本環境協会のガイドラインもこの方向で改正が進められています。

この改正は国による用紙調達基準の改正案ですが、今後企業や団体における環境配慮用紙の考え方もこの方向で整理されていくものと思われます。

◆ 今回の sanbi-i-com は、1月20日に行われましたエコ印刷研究会(→用語解説)セミナーの内容を中心にまとめさせていただきました。

<用語解説>

エコ印刷研究会:印刷物を企業活動に使用する発注者の立場で、「地球と調和した印刷物」を通じて環境負荷低減、持続的社会に貢献することを目的に印刷技術の研究や、実態調査、普及活動などを行っている民間団体

<http://eco-ken.com/>

【発行】2009年1月28日 三美印刷株式会社経営企画室

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-16-7 TEL: 03-3805-7675

URL: <http://www.sanbi.co.jp>